

2019年2月15日発行

# サポセン和歌山

更生保護サポートセンター和歌山：〒640-8157 和歌山市8番丁4・八番丁館3

発行責任者：  
和歌山保護司会会長  
編集：企画調整保護司

TEL：073-460-9298  
FAX：073-425-1301

E-mail：saposen\_w@ares.eonet.ne.jp

第  
**36**  
号

## 第68回“社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰式／H30年12月26日 県二次審査の入賞者を招き表彰

和歌山市一次審査通過56点の内4点が入賞



受賞者の皆さまおめでとうございます

### 最優秀賞は（中学生の部） 山本 愛菜さんが受賞 （和歌山市立日進中学校1年）

昨年12月26日、和歌山保護観察所・6階 研修会議室においてコンテスト入賞者とその家族や受賞者並びに地区の保護司会会長が参加し盛大に開催された。

開会の挨拶として県環境生活部長山田成紀氏が知事メッセージを代読した後、表彰式に移った。和歌山放送、テレビ和歌山等マスコミの取材もあり、いささか緊張した空気の中粛々と進行された。

今回のコンテストには、県下の小学校より107校・2,739点、中学校より96校・5,350点、合計203校・8,089点と多く

の応募があった。尚、和歌山市の応募総数は1,068点、内56点が県の二次審査に送られ4点が入賞。中学生の部最優秀賞に日進中学校1年の山本愛菜さんの作文が選ばれた。

#### 【最優秀賞】中学校1点

山本 愛菜 和歌山市立日進中・1年  
「みんなの力で、明るい社会に」



▲山田県環境生活部長より最優秀賞を授与



▲主催者挨拶：山田・県環境生活部長

#### 【優秀賞】小学校1点

小畑 桃亜 和歌山市立福島小学6年  
「明るい社会を目指して」

#### 県更生保護協会理事長賞

中山 結夢 和歌山県立桐蔭中学3年  
「笑顔に会える町に」

#### 県保護司会連合会会長賞

菱井 咲絵 智辯学園和歌山中学2年  
「視線」



**第 68 回“社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰式** 和歌山県全体の受賞者一覧は「更生保護和歌山 225 号」に掲載されています

**【西支部・県外研修報告】  
佐賀県「麓刑務所」へ  
行って来ました**

平成 31 年 1 月 25 日、平成 30 年度の県外研修として佐賀県鳥栖市の麓刑務所へ見学に行きました。

先ず、担当課長から施設の沿革を含めた説明がありました。以下、説明要旨は下記のとおりです。

昭和 6 年 7 月に熊本刑務所所管「佐賀刑務支所」に女子区が新設され、長崎・福岡・熊本等の刑務所に収容中の女子受刑者を収監。昭和 24 年 8 月 麓村に九州管内唯一の女子収容施設として「麓刑務支所」が設置され、翌 25 年 4 月に本所に昇格。同時に「麓刑務所」と改称され、現在に至る。

敷地面積約 45,900 m<sup>2</sup>で、収容定員 302 人、現在の収容数は約 9 割。刑務官数は 113 名・内 86 名が女性刑務官であるとのこと。緑に囲まれた開放的構造を持つ明るい施設とのこと。矯正処遇としては、全国矯正職員用の制服の縫製や佐賀錦織及び久留米絰製品の製作など。また、職業訓練として介護福祉科・ビジネススキル科・医療事務科があり、これらの作業



の実施を通じて、規律ある生活態度の修得や出所後の社会協同生活に必要な様々な知識や忍耐力・順応性の涵養を図っているとのこと。

説明を受けた後、所内を案内いただきました。廊下の隅々に花が植えられ、清掃も行き届いていたところが女子刑務所だと感じました。食事は食堂で全員が揃って撮るとのこと。また、その一角に地蔵が鎮座しており、手を合わせ行き来する受刑者が多数いるとのことでした。

麓刑務所の見学の前後には、太宰府天満宮やハウステンボス、大浦天主堂・グラバー邸等観光も楽しみ、有意義な県外研修となりました。(林 吉男・記)

# 平成30年度「各専門部会総会」開催模様

平成31年1月18日(金)・県民文化会館・15:30～17:00

## 【総務部会】県文101号室 38名



総務部会長  
野々村 邦夫

平成30年度の総務部担当の事業報告の後、主な事業＝総会・人権フェスタ映画会・新年会等について出席者の意見交換をおこなった。中でも人権フェスタの映画会について多くの意見が出された。具体例は以下のとおりです。

●映画は「小さな叫び」というタイトルで和歌山市が舞台だった。内容も良かったし、上映開始前からほぼ満席となった。その意味では大成功だったが、役割分担など事前にもう少し、きちんと決めた方が良かったのではないかと。またクリームパンの配布は人気があり今後も続けて欲しい。

●保護司候補者の発掘に関してもっと力を注ぎ、不足数を確保するよう取り組みたい etc・・・。

## 【研修部会】県文102号室 27名



研修部会長  
武内 優子

研修部会の総会は出席者27名のもと開催しました。本年度の自主研修について活発な意見交換ができました。

●三者合同研修については、協力雇用主会からの西平都紀子氏の講演は、とても良いお話しだったのでこちらの事前打ち合わせが不十分であったことを反省しました。次年度は、「更生保護女性会の活動について」の講演(案)に決定しました。

●4支部合同体験発表研修会では、東西南北4支部が二巡したので、グループ討議等、新しいやり方を検討しては？との意見が出ましたが、毎回発表ケースが違うので、次年度も2支部の体験発表会(東・西支部が発表担当)を続けることに決めました。

## 【犯罪予防活動部会】県文402号室 24名



犯罪予防部会長  
宮本 二

各支部より30年度の犯罪予防部会の活動報告がなされました。各支部共通の

取り組みとして、社会を明るくする運動のための配布物品の仕分け作業をサポートセンターに於て正副部長で実施。県市の社明推進委員会では、構成委員・団体へ「JR和歌山駅頭啓発活動への参加」要請と各種準備作業を実施。各支部より社明月間の取り組み状況の詳しい報告が為された。9月には、社明作文コンテストの一次審査に4支部正副部長全員で取り組む。「社明作文コンテスト」への参加校数が減少してきているのが気懸りと言う意見が多く、これの解消策は、日頃から学校との繋がりをしっかり持たなければならぬという結論的意見が出ました。

## 【協力組織部会】県文401号室 21名



協力組織部会長  
松本 貞夫

中間事業報告として、各支部部長より協力雇用主表敬訪問について、次の様な

報告がなされた。訪問先の雇用主様についてはしっかりと趣旨認識されており、引続き積極的に協力いただけたと感じた。次に、和歌山県警察犯罪白書によると、全般的には犯罪件数は減少傾向である一方、再犯率は上昇傾向にあるが、これには社明運動をはじめとする犯罪予防活動の効果が寄与していると思われる。

最後に太田統括観察官による「協力雇用主に対する刑務所出所者等就労奨励金制度」についての講義をいただきました。質疑も多く出され、参加者の皆さまにご理解いただけたものと思います。



和歌山保護司会新年会 平成31年1月18日・アバローム紀の国2F「鳳凰の間」

# 70周年迎える記念の年 更なる発展を

恒例となっている保護司会新年懇親会は、専門部会総会終了後の午後5時30分より、2階「鳳凰の間」で盛大に開催された。

来賓として、市長代理の森井 均 副市長・関係部署の幹部8名。観察所からは熊部所長以下4名、和歌山市保護観察協会・土山会長、協力雇用主会・岩橋会長、高垣BBS会会長、石谷更生保護女性連盟会長及び分会長ら17名の方々を迎え、総勢102名で新年を祝い懇親を深めた。当初、原 一起教育長も出席されることとなっていたが、体調不良のためやむなく欠席された。

新年会は野々村総務部会長の巧みな司会で進行。小西会長のあいさつの後、森井副市長・芝本市議会副議長、熊部観察所長の来賓祝辞に続き今年も畑口保護司による「大慶（よろこび）の舞い」の祝舞披露。新年会の雰囲気いきりりと引き締まる。

土山保護観察協会会長の乾杯の発声で待ち遠しかった宴会の幕開けとなった。其処のテーブルで笑顔がはじけ、和やかな交流の輪が広がった。

午後7時30分、奥田副会長の中締めで、2時間余の楽しい懇親会の幕を閉じた。



▲来賓挨拶：森井副市長、芝本副議長、熊部観察所長 ・土山観察協会会長の乾杯発声



▲ 大慶の舞・畑口保護司



## 【小西会長あいさつ要旨】

新年の挨拶と更生保護活動に尽力する会員へ礼を述べ、最近の更生保護事情にふれながら以下の3点について話された。



1. 「再犯防止の推進に係る国、及び地方自治体に対する責務」が課せられる等いくつかの施策が始まったこと。これの実効を期するためには、国・地方公共団体・民間が一体となって「犯罪や非行を犯した人の立ち直りに向けた取組み」を尚一層推進していくこと。
2. 全国保護司連盟理事評議員会は、上記のことを重点にし「サポートセンターの拡充」「出所者雇用に対する奨励金」の充実に重点を置いた予算要求を出している。
3. 今年秋には更生保護制度施行70周年記念和歌山大会の開催に向けて全会員のご協力を頂きたい。